

—アラー川とセブ湖源流域で、継続的、広域的に
アグロフォレストリーを実施します—
ダグマ山系先住民の村の環境保全と収入向上事業

昨年 7 月に始まった標高 1200~1500mのバランガイ・ラムダグのタブロ地区におけるゴムノキと在来種苗木植林からなるアグロフォレストリー事業は、2カ月の苗木養生期間を過ぎても雨が余り降らず、移植が遅れています。雨を待つ間、日よけした苗床で、当番の住民が毎日水やりをし、移植後の枯死率を 10%以下に抑えるため苗木養生に努めています。



道路が整備されたレイクセブ町の事業では、輸送による苗木の損傷は少なくすみますが、それでも車から降ろす時は、一鉢一鉢慎重に扱いました。

本事業が目指す生態系回復とアラー川およびセブ湖にそそぐ川の源流部の土壌保全のためには、できるだけ広範囲に植林することで効果も高まるため、タブロに隣接するラムカニダン地区の 30ha についても同じく「緑の募金」交付金申請をすませました。さらに、その西隣に位置するバランガイ・タクネルの SCMSI の小学校があるベネフを含む 4 地区についても 3 年継続事業として地球環境基金に助成を申請したところ、この度内定の通知をいただきました。

町の環境担当が撮影したバランガイ・タクネルの丘陵地にできた大規模な雨裂のあと。山腹斜面の地滑りも多発していて、町は本事業に全面協力を申し出ています。



3 年後には、レイクセブ町の南部に位置するこの山岳部の 150ha で苗木移植が完了し、将来の安定的収入源ゴムノキが、早いものでは人の背丈を超え、急斜面の生態系保護区に植えたナブル、ナラ、ラワンなどの在来種苗木も、コゴングラスに隠れながらもしっかり根を張り、土壌流出防止の仕事をしてくれると思います。ただし、このような成果を上げるには、受益者で組織する住民組合と PFP による日常的モニターに加えて、私たちも定期的に現地を訪ねて課題を共有する必要があります。ご関心ある方、是非、この収入向上と環境保全事業のモニターにご参加ください。

急がれる組合員の縫製技術向上
—レイクセブの熟練縫製者ピポットを失って—

3 月 22 日元 COWHED 組合長メルチさんから、ティナラク織の縫製を一手に引き受けていたピポットさんがその 2 日前の 20 日に倒れたという一報が届きました。心臓発作によるもので、COWHED 注文の大量のセミナー用バッグをピポットの家族総出で縫っていた最中だったようです。COWHED が BCBP から受けたそのバッグの注文総数は 2300 個。納入済みは 1000 個のみで、残り 1300 個の納期が迫り、ピポットも無理をしていたのでしょう。

ピポットさんの最後の仕事になった大量受注に見るように、ティナラク製品のフィリピン国内需要が加速的に増えているのは、嬉しいことで、私たちの日本での販路拡大活動も一息入れられます。ただし、日本での愛好者も増えてきているので、フロリータさん等組合員には是非腕を磨いて良い製品を届けてほしいと思います。



15 年以上、日本のイベント等で一番人気だったピポットさんの代表的縫製品、手提げバッグ。COWHED 組合員には、これを超えるものを縫えるようになってほしいものです。

セブ湖の島の生態系を回復する事業 (2 年目)

6ha の保護区に植えたナブルなど 4 種 2000 本は 70cm になり、土壌保全効果が出てきました。焼き畑による森林破壊防止のための収入源 1000 本のバナナもすでに収穫が始まりましたが、ティラピア養殖は遅れていて、初出荷は 5 月になりそうです。ビーズ細工も含む代替収入源支援に重点を置いた試験的事業は、今後ももしっかりモニターを続けていきたいと思っています。(イオン環境公益財団助成)

— ボルールの住民組合 BOSDA を
アグロフォレストリー事業で応援します —
前号でもご報告の卒業生が組織した BOSDA では、この 4 月、農業専攻ボニファシオが指導する環境保全と収入向上の小規模アグロフォレストリーモデル事業(3ha、直接・間接受益者計 40 世帯)が始まりました。近年地滑り被害が増えている地域で、土壌保全効果と近い将来のゴム樹液収入による貧困脱出を目指します。
(NPO 法人 WE21 ジャパンみどり助成)